

SSS032-P24

会場:コンベンションホール

時間:5月25日 16:30-17:30

福岡沿岸域において新たに確認された活断層露頭 Fault exposure along the west foot of the Kodaiji mountain, Munakata-City, Fukuoka Prefecture.

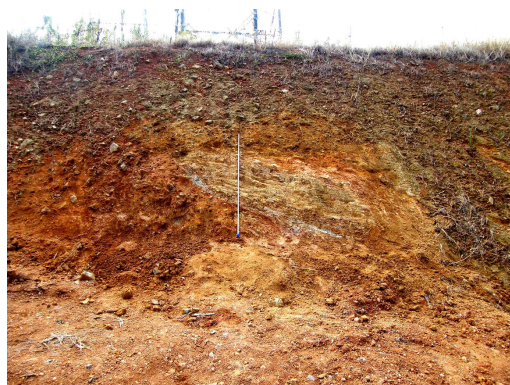
中村 洋介^{1*}, 水野 清秀¹

Yosuke Nakamura^{1*}, Kiyohide Mizuno¹

¹産総研・地質情報研究部門

¹GSJ, AIST

福岡県宗像市池田において新たな活断層露頭を発見した。段丘礫層の上に古第三紀の池田層が乗り上げる逆断層であり、断層の走向ならびに傾斜はそれぞれN20°Wと28°Wである。本露頭における段丘礫層の上下変位量は約3.2mである。段丘礫層の上位を土壌層が覆っており、土壌層下部にASo-4ならびにK-Tzに対比されると考えられる火山起源の鉱物が検出されたことから、段丘礫層の形成時期はおよそ10万年前であると考えられる。本地域では白亜紀の花崗岩類と池田層を限る地質境界断層の存在が指摘されている(尾崎ほか、1990)。今回発見された露頭は下盤側の段丘礫層の下位に花崗岩類が認められることから、本断層は尾崎ほか(1993)が指摘した地質断層と一致すると考えられる。北部九州の活断層の多くはNNW-SSE走向を有し、それらのうちのいくつかの活断層は第四紀前期には正断層として丘陵/平野分化の地形形成に関与したものが応力場の変遷によって第四紀後半に逆断層として再活動していると解釈されている(下山、2007)。今回発見された活断層は平野側が隆起するNNW-SSE走向の逆断層であることから、下山(2007)の指摘のように第四紀前期には正断層として活動したものが第四紀後期以降は逆断層として再活動しているものと考えられる。また、本研究では宗像市池田の他に福岡県内数ヶ所において活断層の可能性が高いと考えられる断層露頭や変位地形を確認したので合わせて報告する。



キーワード: 活断層, 断層露頭, 福岡沿岸域, C級活断層

Keywords: active fault, fault exposure, Fukuoka Coastal zone, C class fault